

牛久：学校周辺に見る自然

第26号 牛久二小

2013年12月4日発行

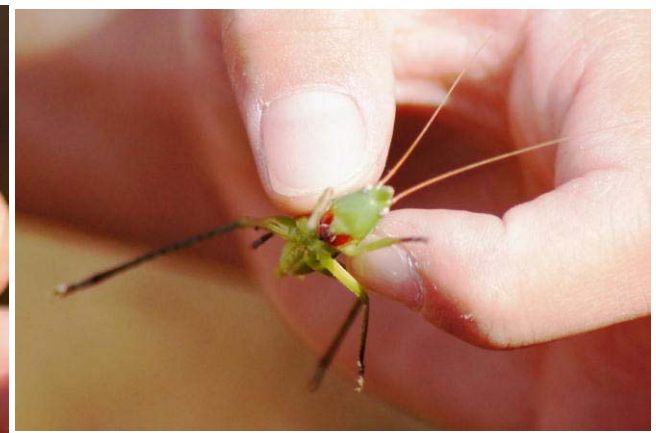
＜ 秋の生きもの観察 ④バッタ、カマキリ ＞

11/6、牛久二小4年生と秋の校庭観察。今回はバッタやカマキリのなかまです。



オンブバッタ(左)とエンマコオロギ(右)。これら、ほとんどのバッタの仲間は卵で冬を越す。

草の中にかくれるように**オンブバッタ**が、そしてビオトープ池のそばには**エンマコオロギ**がいました。バッタの仲間のほとんどは、卵で冬を越します。大部分はすでに産卵を終えているようでした。



成虫で冬を越すクビキリギス。口のまわりが赤く、緑色型(上2枚)と褐色型(左)がいる。

ところが例外はつきもので、中には成虫で冬を越すバッタもいます。このクビキリギスもそう。かみつくとなかなかはなれず、無理に引っばると首が切れてしまうのでついた名だそうです。緑色のものと茶色のものがありますが、どちらも口のまわりが赤いので、まちがえることはありません。



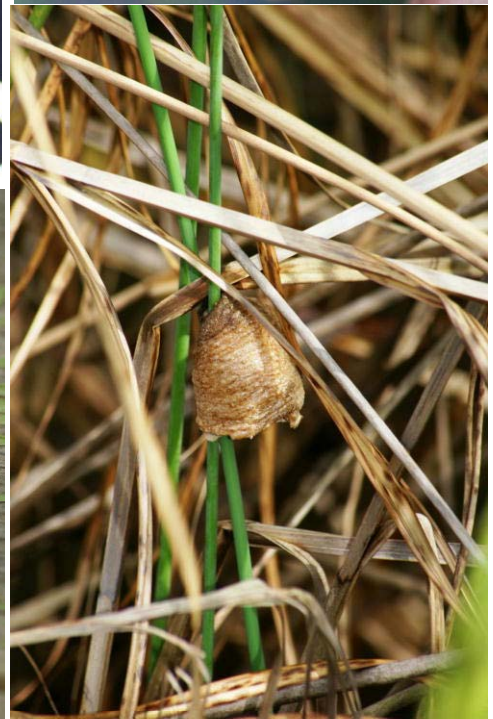
こちらの**ツチイナゴ**も、成虫で冬を越します。うす茶色のバッタで、目の下に涙を流しているようなもようがあるのが特ちょう。幼虫は緑色で別種のように見えますが、やはり目の下に涙もようがあってそれと分かります。草が茂る幼虫のころには緑色をしていて、秋～冬の成虫の時期に枯れ草色になるとは、うまくできていますね。成虫で冬を越すツチイナゴ。幼虫は緑色で、秋～冬、成虫になると枯れ草色に。

カマキリのなかまも、卵で越冬^{えっとう}します。ビオトープのまわりでは、オオカマキリの卵のうをたくさん見つけましたね。産卵^{さんらん}を終えて力つきたのか、オオカマキリの死体も横たわっていましたが、よろよろとした感じで歩くコカマキリもいました。低い草の中で見つけることが多く、体も小さいで



すが、カマの内側のしまもようが特ちょうです。暖^{あたた}かそうなからに包まれたカマキリの卵ですが、コゲラやヨコヅナサシガメに食べられているのを見たことがあります。安全に春を迎え^{むか}られるのは、どのくらいあるのでしょうか？

【理科支援員：宮内】



カマキリの仲間も、卵で冬を越す。ビオトープのまわりでたくさん見つけたオオカマキリの卵のう(左上, 右下)。枯れ草の中にいたコカマキリ(右上)。カマの内側のしまもようの特ちょう。死んで横たわっていた、オオカマキリ(左下)。